

# みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

## 7.文化資源研究センター

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-03-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10502/00005953">http://hdl.handle.net/10502/00005953</a>

# 7 文化資源研究センター

## 文化資源研究センターの設置目的

文化資源研究センター（英語名 Research Center for Cultural Resources）は、文化資源の体系的な管理と情報化、およびその共同利用や社会還元に向けて調査や研究開発を行うとともに、実際に事業を推進する際の企画・調整を行うことを目的として、2004年4月に設置された。

文化資源には、人間の文化にかかわるさまざまな有形のモノやそれについての情報のほか、身体化された知識・技法・ノウハウ、制度化された人的・組織的ネットワークや知的財産など、社会での活用が可能な資源とみなされるものが広く含まれる。こうした文化資源を人類共有の財産とすることで、グローバル化する世界で人びとが異なる文化への理解を深め、互いに共生していくための基盤を作り出そうというのが、文化資源研究センターのめざすところである。文化資源研究センターは、独自に研究事業を企画・運営するほか、文化資源関連事業として、館内、館外の研究者が参画して実施する多様な文化資源プロジェクト等の企画・調整を通して、文化資源の運用全般に寄与することを役割としている。

## 文化資源研究センターの研究事業

2014年度に文化資源研究センターが独自に実施した研究事業の概要は以下のとおりである。

- 1) 所蔵資料を研究・展示・情報提供等に有効に活用するための資料管理に関する調査・分析作業（博物館環境の調査・分析作業、民族学資料の保存手法に関わる調査・分析作業）を行い、文化資源プロジェクト（資料管理分野）との関係により、「有形文化資源の保存・管理システム構築」を継続的に進めた。
- 2) 教職員の文化財の保存・管理に関する専門的知識の習得に関する支援を行った。
- 3) 「探究ひろば」に設置・運用している展示物提示システム「イメージファインダー」の効果を被験者実験により測定し、学術的な分析を行った。
- 4) 文化資源の活用に関する調査を機関研究員を中心に行った。
  - ・兵庫県立西宮今津高校の教員及び学生を対象とした、新構築後の「沖縄のくらし」の展示資料の教育的活用に関する調査研究
  - ・鹿児島大学法文学部の教員及び学生を対象とした、民博の資源（みんぱく）の教育的活用に関する調査研究
  - ・日韓の高等学校における「学校芸能」の創造に関する比較研究
  - ・映像・音響プログラムの公開・発信の手法に関する調査研究
- 5) 文部科学省をはじめとする中央官庁の実施する社会連携活動の実態調査として、文部科学省及び経済産業省が実施した「子ども霞が関見学デー」の現場を視察し、本館の今後の取り組みについて検討した。
- 6) 『文化資源研究センター活動報告2013』を発行した。
- 7) イコム日本委員会 平成26年度委員会・総会に出席した。
- 8) タブレットPCを導入し、文化資源関連の会議（文化資源運営会議、文化資源研究センター会議）のペーパーレス化を図るとともに、文化資源研究センター教員をはじめ関係者による情報の共有化の手法の検討とその効果についての評価を図った。

## 文化資源関連事業

文化資源に関する主な開発研究や事業は、文化資源関連事業として運営される。そのねらいは、目的、計画、経費、責任を明確にし、それぞれの成果を的確に評価して、さらなるプロジェクトの発展を図ることにある。文化資源関連事業は、「文化資源プロジェクト」「文化資源計画事業」「情報管理施設のプロジェク的な業務」からなり、文化資源運営会議が毎年募集し、選定する。また、「文化資源プロジェクト」「文化資源計画事業」は館内外の研究者の運営のもとで遂行され、文化資源研究センターや情報管理施設の専門スタッフの支援・協力を受けて、効率的かつ機動的に推進されている。

2014年度の文化資源関連事業の概要は以下のとおりである。

### 1. 運営体制

#### 1) 文化資源関連事業の構成と運営体制

2009年度から再編を実施した文化資源関連事業について、「文化資源プロジェクト」「文化資源計画事業」「情報管理施設のプロジェク的な業務」の3種類のカテゴリーによって運用した。また、文化資源共同研究員の制

度を運用し、共同利用を推進した。さらに外部有識者による意見をプロジェクトの審査に反映させた。

## 2) 本館展示新構築の体制整備

本館展示総括チーム及び各展示プロジェクトチームのリーダー等からなる拡大展示専門部会を開催し、新構築を円滑に進めた。

2014年度新構築分（南アジア展示、東南アジア展示）について、実施設計に続いて展示施工を行い、完成させた。また、2015年度新構築分（中央・北アジア展示、アイヌの文化展示）の基本設計を完成させた。

## 2. 文化資源プロジェクト

文化資源プロジェクトは、大学共同利用機関法人人間文化研究機構の第2期中期目標・中期計画に沿って、本館の大学共同利用機関法人としての共同利用基盤を整備するとともに、本館が所蔵もしくは管理している学術資源の体系化を進め、共同利用を促進し、学術的価値を高めるための研究プロジェクトである。

プロジェクトは、5つの分野（調査・収集、資料管理、情報化、展示、社会連携）に関わる研究開発、または研究成果の前記5分野への展開を目的とするもので、その成果は共同利用に供するとともに、社会への還元ができるものであることを前提とする。

### 1) 調査・収集分野

#### 中央・北アジア展示新構築のための標本・映像音響資料収集

提 案 者：藤本透子

2015年度の中央・北アジア展示新構築のため、中央アジア（カザフスタン、ウズベキスタン）、ロシア（シベリア）、モンゴルで、生業、生活文化、儀礼、宗教実践、社会主義などに関わる標本資料（481点）、写真資料及びデジタルデータを収集した。

#### 和太鼓の製作工程と伝統技術の継承に関する映像取材

提 案 者：寺田吉孝

大阪市に伝承されている和太鼓の製作方法を、各工程で用いられる技術と職人の身体の動き・流れに焦点を当てながら詳細に映像記録した。取材は、部落解放同盟浪速支部、太鼓製造業の株式会社太鼓正（大阪市浪速区）、および太鼓皮製造業の株式会社ナカモト（同西城区）の全面的協力を得て、計9日間行った。

#### 中国雲南省の少数民族の儀礼とキリスト教文化に関する映像番組の編集

提 案 者：横山廣子

過去に実施した文化資源プロジェクトの撮影映像及び申請者が調査で撮影した映像を編集し、中国雲南省の少数民族に関するビデオテークを製作する2か年計画の1年目。今年度は回族の婚礼とリス族およびミャオ族のキリスト教文化に関する3本の番組を製作した。

#### 「ラージャスターン州の生活・信仰・儀礼」に関する映像資料の編集と現地語版の作成

提 案 者：三尾 稔

2011年度に実施した映像音響資料取材プロジェクト（「インド・ラージャスターン州における社会変容と婚礼」）の成果に基づき、取材資料をビデオテーク・マルチメディア・コンテンツ番組として編集製作した。

#### カリंगा音楽に関するビデオテーク番組の編集

提 案 者：寺田吉孝

2008年度に収集した映像音響資料をもとに、フィリピン・ルソン島山間地域に居住するカリंगाの音楽を紹介するビデオテーク番組『祝いの音、勝利の記憶——フィリピン・ルソン島山地民の結婚式』および、その英語版、現地語（イロカノ語）版を製作した。

#### ビデオテーク番組 *Guitars of Portugal* の編集

提 案 者：寺田吉孝

2006年に収集した映像音響資料をもとに、ポルトガルのギター音楽文化を紹介するビデオテーク番組 *Guitars of Portugal* を製作した。

#### ビデオテーク番組 *Guitars of Puerto Rico* の編集

提 案 者：寺田吉孝

2008年に収集した映像音響資料をもとに、プエルトリコのギター音楽文化を紹介するビデオテーク番組 *Guitars of Puerto Rico* を製作した。

#### トゥバ映像記録の資料編の編集

提 案 者：佐々木史郎

2012年度に取材した映像資料をもちいて、2013年度にビデオテーク番組を日本語、モンゴル語、中国語、ロシ

ア語で（中国編、モンゴル編、ロシア連邦トゥバ編、総集編）計16本ならびに総集編について英語で製作した。2014年度は、資料編として長時間番組を製作した。

研究公演「神への祈りと喜びの舞曲——バツハからバルトクへ」にもとづくビデオテーク番組の制作

提 案 者：新免光比呂

本館で開催した研究公演を文化資源として活用するために、ビデオテーク番組（マルチメディアコンテンツ）1本を製作した。

ネパール関連のビデオテーク番組の編集

提 案 者：南 真木人

2013年度に現地撮影した映像を用い、「ネパール 都市の結婚式」、「ネパール 山村の結婚式」、「ネパールの金細工」、「カトマンドゥ盆地の30年」の4本のビデオテーク番組を製作した。

彫金技術の映像取材と番組制作

提 案 者：日高真吾

2015年度に寄贈が予定されている園幸雄氏の彫金製作用具の受け入れに伴い、各道具の使用方法和彫金技術に関する記録映像を撮影し、ビデオテーク番組として9本の番組製作を行った。

展示記録映像のあり方に関する実践的研究

提 案 者：日高真吾

企画展「みんぱくおもちゃ博覧会——大阪府指定有形民俗文化財『時代玩具コレクション』」及び「未知なる大地 グリーンランドの自然と文化」において、展示記録をデジタルアーカイブスにするための手法を実践的に検討し、展示記録パノラマムービー2本を作製した。

「アイヌの文化」展示新構築のための資料収集

提 案 者：齋藤玲子

2015年度に実施する「アイヌの文化」展示の新構築のために、アイヌの工芸家らによる現代作品、およびアイヌ民族復権運動の先駆者であった山本多助氏（1904-1993）の子息・文利氏が所蔵する民具や観光に関する資料等を収集した。

## 2) 資料管理分野

有形文化資源の保存・管理システム構築

提 案 者：園田直子

①有形文化資源の保存対策立案：総合的有害生物管理の考えに基づいた生物被害対策、②資料管理のための方法論策定：博物館環境調査と収蔵庫狭域化対策、これら資料管理に関わる基礎研究・開発研究と事業を企画、実施、統括した。

東日本大震災で被災した文化財の保管環境に関する調査研究3

提 案 者：日高真吾

2012年に行った「東日本大震災で被災した文化財の保管環境に関する調査研究」、2013年に行った「東日本大震災で被災した文化財の保管環境に関する調査研究2」を継続発展させ、廃校を利用した、一時保管場所の効果的な運用対策について検証した。

## 3) 情報化分野

京都大学学術調査隊関連資料の整理とデータベース作成

提 案 者：吉田憲司

2011年度にみんぱくのデータベース検索システムより公開した「京都大学学術調査隊写真コレクション」に、2013年度と2014年度にデジタル化した写真資料をテキスト情報と共に追加した。また、共同研究者により、「京都大学アフリカ学術調査隊」の資料全件に対して、テキスト情報の修正・付加作業を行い、その結果をデータベースに反映した。さらに、「京都大学カラコラム・ヒンズークシ学術探検隊」と「第二次京都大学ヨーロッパ学術調査隊」コンテンツを新たに作成・構成し、館内公開した。

「大島襄二コレクション」の整理とデータベース作成

提 案 者：久保正敏

大島襄二氏が、1967年～1991年にかけてアジアや大洋州などを、調査した時の記録写真9150コマの整理（点検、概要把握、デジタル化のための資料選別）を行った。また、デジタル化対象資料の1782コマについてはデジタル化を完了している。著作権処理については、著作権譲渡の事務処理完了済である。

## 東大資料の目録（『土俗品目録』）のデータ化

提 案 者：佐々木史郎

本館収蔵の東京大学理学部人類学教室旧蔵資料（受入番号50-501～524／K0000001～0004872番の資料）の原簿（『土俗品目録』）のデジタル画像データを作成するとともに、その内容を本館の標本資料学術データベースと照合できるように整理した。

## 「沖 守弘インド民族文化写真資料アーカイブ」のデータベース作成

提 案 者：三尾 稔

上記のアーカイブ資料に含まれるスライド写真のデジタル化を実施した。別経費（地域研究推進経費）で、デジタル化の一部とスライド写真に関するテキスト情報を作成した。

## 佐々木高明（名誉教授）による写真資料の学術情報化プロジェクト

提 案 者：池谷和信

データベースの作成に向け、整理作業を行い、ネガフィルム（26,842点）のデジタル化を行った。また、日本の焼畑の専門家を招聘し、2014年度デジタル化資料のうちから8,968点分の写真を見ていただき、その一部のテキスト情報を作成した。

## 世界の身装文化デジタルアーカイブの構築

提 案 者：久保正敏

2011年度～2013年度の複数計画で進められた＜世界の布文化データベースの構築＞を受け、2014年度は布地標本に限ることなく、本館に収蔵されている衣服・アクセサリー標本を中心に研究を進めた。標本について11検索項目について分析を行い、1点につき平均5枚の写真を撮影し、標本資料データベースとのリンクも実現している。＜衣服・アクセサリー標本＞3,463件、＜身装文献＞6,145件、＜近代日本の身装電子年表＞11,005件のデータを更新した。

## 三次元CGを利用した民族建築デジタルアーカイブの構築

提 案 者：佐藤浩司

これまで文化資源プロジェクトで作製されたインドネシア諸民族の木造民家の三次元CGはおよそ50点にのぼる。これら資料のデータベースを公開するにあたって、実際の図面と齟齬があるCGの修正を行った。

## 4) 展示分野

## 平成26年度本館展示新構築（南アジア展示・東南アジア展示）

提 案 者：吉田憲司

本館では、2008年度より本館展示の全面的な新構築に着手している。2014年度は、南アジア展示および東南アジア展示の新構築を実施し、2015年3月19日に両展示を一般公開した。

## 平成25年度展示新構築にかかるみんなく電子ガイドコンテンツの製作

提 案 者：福岡正太

「朝鮮半島の文化」「中国地域の文化」「沖縄のくらし」「多みんぞくニホン」の新構築に伴い、新たに必要となった電子ガイド用コンテンツ（日本語、英語、韓国語、中国語）を製作した。また、番号プレートを展示場に設置し来館者へのサービスを開始した。

## 特別展「イメージの力——国立民族学博物館コレクションにさぐる」

主 催 国立民族学博物館、国立新美術館

共 催 日本文化人類学会

特別協力 民族芸術学会

協 力 国立情報学研究所、千里文化財団

実行委員 館内：吉田憲司（実行委員長）、須藤健一、上羽陽子、丸川雄三、山中由里子、齋藤玲子  
館外：青木 保（国立新美術館）、南 雄介（国立新美術館）、長屋光枝（国立新美術館）、山田由佳子（国立新美術館）、小泉潤二（大阪大学）、足羽與志子（一橋大学大学院）、春日直樹（一橋大学大学院）、窪田幸子（神戸大学大学院）

開催期間 2014年9月11日～12月9日

入 場 者 35,704人

国立民族学博物館開館40周年・日本文化人類学会創立50周年記念事業として、2014年2月19日から6月9日まで、東京・国立新美術館において本館の所蔵品を展覧する「イメージの力——国立民族学博物館コレクションにさぐる」を開催し、さらに同展を同年9月11日より12月9日まで、本館特別展示館で開催した。

#### 企画展「未知なる大地——グリーンランドの自然と文化」

プロジェクトメンバー

館内：岸上伸啓（リーダー）、齋藤玲子

館外：Naja Rosing-Asvid（ナヤ・ロージング・アスヴィド）（グリーンランド国立博物館）、  
Kasper Hansen（キャスパー・ハンセン）（在日デンマーク大使館）

開催期間 2014年9月4日～11月18日

本館には植村直己や岡正雄が収集した学術的に重要なグリーンランド・イヌイットの資料が所蔵されている。本館の所蔵品を中心に北海道立北方民族学博物館、高円宮家、デンマーク王室ヘンリック・コレクションなどの所蔵品や映像・音響資料を用いて、世界最大の島グリーンランドの自然と文化についての展示会を2014年9月4日から11月18日まで本館・企画展示場Aにおいて開催した。また、その一部を2015年3月28日から4月19日まで東京の代官山ヒルサイドフォーラム・ギャラリーにおいて展示した。

#### 企画展「みんぱくおもちゃ博覧会——大阪府指定有形民俗文化財『時代玩具コレクション』」

プロジェクトメンバー

館内：日高真吾（リーダー）、久保正敏、丸川雄三、吉田憲司

館外：小池淳一（国立歴史民俗博物館）、武知邦明（枚方市立旧田中家鋳物館）

開催期間 2014年5月15日～8月5日

2012年度に大阪府より、本館に移管された大阪府指定有形民俗文化財「時代玩具コレクション」について、これまでの研究成果を反映した展示を行った。本展示では、本コレクションに分類されるもののうち、1.ブリキ製玩具、2.ボード玩具（盤上玩具）、3.マスコミ玩具、4.カード玩具（絵札玩具）の4つのコーナーからなり、これらの玩具の歴史変遷と日本の近現代史と照らし合わせながら、その遊び方について紹介した。

#### 企画展「岩に刻まれた古代美術——アムール河の少数民族の聖地シカチ・アリヤン」の準備

提 案 者：佐々木史郎

4回の準備委員会を開催し、展示名、開催期間、主催・共催・協力、巡回館、展示資料、展示内容、図録内容の各項目について検討し、最終決定を行った。

#### アイヌ展示新構築事前調査

提 案 者：齋藤玲子

2013年度に引き続き、2014年度は7月と1月および2月に館外研究員を招聘して研究会を開催し、アイヌ文化展示の基本設計に向けて、そのコンセプトやおもな展示資料について検討を行った。

#### ・特別展「韓日食博——わかちあい・おもてなしのかたち」の開催準備活動

実行委員 館内：朝倉敏夫（実行委員長）、丸川雄三、金 昌鎬（外国人研究員）

館外：林 史樹（神田外語大学）、守屋亜記子（女子栄養大学）、李 エリア（早稲田大学）、  
奇 亮（韓国国立民俗博物館）、金 永才（韓国国立民俗博物館）、安 廷允（韓国国立民俗博物館）

開催期間 2015年8月27日～11月10日

2015年度の特別展の開催にむけて事前調査を行うとともに、韓国国立民俗博物館はじめ関係各機関との連絡・協議を行った。また、特別展の開催のための外部資金の獲得に向けて申請した。

#### 次期ビデオテークのユーザーインターフェースデザイン研究

提 案 者：福岡正太

次期ビデオテークの更改を視野に入れ、博物館における21世紀型ビデオライブラリーの提供方式を、ハードウェア・装置と操作画面のユーザーインターフェース（UI）に重点を置いて調査・検討した。ユーザーが本館のビデオテークや他施設のビデオライブラリーをどのように利用しているのかについて調査し、装置とUIデザインを実証的に検討した。

#### 多機能端末における公開データベースの一般ユーザー向け応用の研究

提 案 者：福岡正太

標本資料目録、言語資料、服飾・身装文化資料などのデータベースは、現在InfoLib（パッケージウェア）を使用して運用されている。しかし、そのUIは研究者・プロフェッショナル向けであり、一般のユーザー向けになっていない。そこでユーザーがどのように博物館のデータベースを利用するのかを調査するとともに、専門的知識がなくても利用できるようなUIを設計した。

## 次世代ユニバーサルミュージアム／展示空間における知覚鑑賞の評価手法の開発

提 案 者：吉田憲司

本館が目指すユニバーサルミュージアムの次のステップとしての次世代ユニバーサルミュージアム構築にむけて、多様な来館者が問題なくアクセスでき快適に観覧できるだけでなく、展示空間における知覚鑑賞が可能となる展示デザインの評価手法の開発を行った。また、その評価手法に基づいて、視覚障害者を対象とした触知案内盤を開発し、その特許申請を行った。

## 国立民族学博物館における展示情報の館外活用に関する技術的研究——ビデオテークを中心とするみんなくコンテンツ発信環境の構築

提 案 者：福岡正太

展示関係資料の館外活用例として、持ち出しが可能でタッチパネルによる直感的な操作が特徴のビデオテークのデジタルビューアを構築した。また既存の番組100本からなるテスト用のテーマコンテンツを製作し、館内でのデモを実施した。

## 次世代みんなく電子ガイドによる来館者向けWebサービスの研究と開発——観覧支援サービスと展示情報提示の繋合

提 案 者：福岡正太

携帯端末で提供する次世代みんなく電子ガイドを本格的な来館者向けサービスとして充実させ、提供すべきコンテンツと仕様を検討し試験環境の構築を行うものである。来館者が展示を観覧するうえでリアルタイムに提示できる支援サービスの内容を検討し、あわせてインターフェースと提示方式を設計したうえで試験環境による検証を行った。

## 特別展「夷酋列像——蝦夷地イメージをめぐる 人・物・世界」の開催準備

実行委員 館内：日高真吾（実行委員長）、佐々木史郎、齋藤玲子、野林厚志、吉田憲司

館外：吉本 忍（国立民族学博物館名誉教授）、内田順子（国立歴史民俗博物館）、横山百合子（国立歴史民俗博物館）、右代啓祝（北海道博物館）、山際晶子（北海道博物館）

開催期間 2016年2月25日～5月10日

本展示は、蠣崎波響筆「夷酋列像」の実像を明らかにするとともに、この絵画が描かれた18世紀の蝦夷地とその国際性を広く紹介するものである。今年度は来年度の開催に向けての準備期間として、北海道博物館、国立歴史民俗博物館と展示の開催概要に関する打ち合わせを行った。

## 企画展示場有効利用システムの開発

提 案 者：日高真吾

企画展示場有効利用システムの開発

現行の企画展示場は、企画展が開催されていない際、休憩用のいすが設置されているのみで、本館展示場の美観を著しく損ねている。そこで、本プロジェクトでは企画展示が開催されていないときの空間利用として、過去の特別展のポスターを利用したシステムを開発し、来館者が安心できる空間を創出した。

## 5) 社会連携分野

## カムイノミ及び重要無形民俗文化財「アイヌ古式舞踊」演舞の実施

提 案 者：齋藤玲子

本館が所蔵するアイヌの標本資料に対して、安全な保管と後世への確実な伝承を目的に、祈りの儀式（カムイノミ）を行った。併せて国の重要無形民俗文化財であるアイヌ古式舞踊の演舞を、一般公開で実施した。

## 博学連携教員研修ワークショップ2014 in みんなく

提 案 者：上羽陽子

2014年8月5日に、「学校と博物館でつくる国際理解教育——センセイもつくる・あそぶ・たのしむ」をテーマとして、日本国際理解教育学会との共催で開催した。参加者は主に小・中・高等学校、支援学校等の教育機関教諭、大学生、大学院生、博物館職員など計111名であった。

## 「展示版みんなく」の制作『あるく、ウメサオタダオ展』

提 案 者：上羽陽子

2011年の特別展「ウメサオタダオ展」をもちいて、当該展示の資料を工夫して「みんなく」にすることにより、利用者がみずから展示場をつくりながら、資料を利用できるようにした。現行の「みんなく」と同様のサイズを展示版にするものであり、みずから移動する展示である。

#### みんぱっく「ジャワ文化をまとう」改訂版の制作

提 案 者：福岡正太

本館の教育機関向け貸出キットである「みんぱっく」の「ジャワ文化をまとう」は、製作より10年以上が経過して老朽化し、一部内容物が欠損したまま運用してきた。そこで、2014年度に実施された東南アジア展示の新構築に合わせ、2013、2014年度の2か年で、「ジャワ文化をまとう」パックの全面的な内容見直しを行い、改訂版1パックを製作した。

#### みんぱっく「アンデスの玉手箱」改訂版の制作

提 案 者：關 雄二

本館の教育機関向け貸出キットである「みんぱっく」の「アンデスの玉手箱」は、制作より12年が経過して老朽化し、一部内容物が欠損したまま運用している。そのため2015年度の改訂（2パック）に向けて基本コンセプトと内容を検討した。

### 3. 文化資源計画事業

「文化資源計画事業」は、研究成果を普及することを目的とした事業で、2つの分野（資料関連、展示・社会連携）に分けられる。

#### 1) 資料関連分野

##### 「朝鮮半島の文化」に関する映像資料の開発と制作：韓国国立民俗博物館との交流事業

2014年度は、3年計画の2年次として、本館「朝鮮半島の文化」に関する映像資料収集の新たなシステムを構築するため、韓国国立民俗博物館との交流協定に基づき協議を行い、梨花女子大学、江原大学、安東大学で映像人類学を専攻する学生たち3チームに研修を受けさせ、2015年3月までに作品を製作、提出させた。今後、本館においてビデオテークとして編集する予定である。

##### 標本資料の寄贈受入

- ・2014年度の南アジア展示新構築において展示する資料として、ネパール・クリケット・ナショナルチーム・公式ユニフォーム一式の寄贈を受け入れた。
- ・2014年度の南アジア展示新構築において展示する資料として、「南アジア地域儀礼・祭礼等関係資料」の寄贈を受け入れた。
- ・本館の中央・北アジア展示の新構築に利用するため、モンゴルにおける現代的なシャーマンの衣装および道具一式の寄贈を受け入れた。
- ・2014年度の南アジア展示新構築において展示する「南アジア地域生活道具資料」として、インドとネパールの生活道具の寄贈を受け入れた。
- ・2014年度の南アジア展示新構築において展示する資料として、「南アジア地域ポスター資料」の寄贈を受け入れた。
- ・2014年度の南アジア展示新構築において展示する資料として、「インド子ども用人形ほか」の寄贈を受け入れた。
- ・「日本幻灯機資料」として1950年代の幻灯機およびサンプル・フィルムの寄贈を受け入れた。
- ・「インド染織資料」としてインドの女性用ショール2点の寄贈を受け入れた。
- ・2014年度の東南アジア展示新構築において展示する資料として、「北タイ日系工場制服資料」の寄贈を受け入れた。
- ・2014年度の南アジア展示新構築において展示する資料として、「南アジア地域映画・音楽・衣装等関連資料」の寄贈を受け入れた。
- ・「インド装身具資料」としてインドの女性用の装身具82点の寄贈を受け入れた。
- ・2014年度の南アジア展示新構築において展示する資料として、「ネパールのククリ・ナイフ」の寄贈を受け入れた。
- ・国立民族学博物館所蔵資料として「パキスタンクリケットユニフォーム」の寄贈を受け入れた。
- ・中国地域に関する標本資料、天津楊柳青木版年画・麒麟送子（2セット）を「中国地域絵画（年画）資料」として寄贈を受け入れた。寄贈された資料は、天津市西青区無形文化遺産である楊柳青木版年画の代表的伝承人である、鄭克祥氏が描いたものである。
- ・ドイツのクリスマスツリーの非常に古い、ローカルな形を示す「クリスマス・ピラミッド」と呼ばれる木彫りの飾り物について、ベルリンヨーロッパ諸文化博物館（MEK）の仲介によって、ベルリン在住コレクターから本館への寄贈を受け入れた。



- ・世界文化遺産に関連した絵画を、国立民族学博物館所蔵資料として寄贈を受け入れた。寄贈受入した絵画のうち、「朝陽アンコール」については、東南アジア展示場横休憩所に展示した。
- ・本館の中央・北アジア展示の新構築に利用する可能性も念頭におきつつ、モンゴルにおける伝統的な民族楽器2点の寄贈を受け入れた。
- ・インド映画の研究者・解説者である松岡 環氏が収集保存してきたインド映画のポスターの寄贈を受け入れた。
- ・中国青海省のチベット族の持込入れと経文の寄贈を中国地域資料として受け入れた。経文はチベット族男性が首から提げる持込入れの中に入れるためのものである。持込入れは、工場生産品で、展示中の同種の資料と対比される現代の汎用品としての意味を持つ。
- ・『聖なる鉄琴「スロンディン」の音世界』（DVD 1 枚）の寄贈を受け入れ、利用許諾を交わすと共に、映像資料として登録した。
- ・2014年度の南アジア展示新構築において展示する資料として、「インドサリー資料」の寄贈を受け入れた。
- ・2014年度の南アジア展示新構築において展示する資料として、ネパールの花嫁衣裳の寄贈を受け入れた。
- ・フィリピンのギター類弦楽器バンドゥリア1点の寄贈を受け入れ、「フィリピン楽器資料」として保存した。
- ・2015年5月21日から7月21日に実施する企画展『岩に刻まれた古代美術——アムール河の少数民族の聖地シカチ・アリヤン』において展示するため北方ユーラシア学会とアンコールワット拓本保存会が、ロシア連邦ハバロフスク地方シカチ・アリヤン村に残されている岩面画から写し取ったロシア拓本（シカチ・アリヤン岩面画）の寄贈を受け入れた。
- ・「インド映画のポスター資料」を、国立民族学博物館所蔵資料として寄贈を受け入れた。
- ・吉本 忍名誉教授が所有しているインドネシアのプリント布を、国立民族学博物館所蔵資料として寄贈受入を行った。寄贈受入したプリント布は、東南アジア展示場にて展示した。
- ・大阪府高槻市内で使用されてきた足踏み脱穀機について、所有者に本館までの輸送を依頼、標本資料として寄贈を受け入れた。

## 2) 展示・社会連携分野

### 日本の文化展示「祭りと芸能」、「日々の暮らし」の部分改修

2012年度に新構築した日本の文化展示の「祭りと芸能」、「日々の暮らし」に関して、来場者アンケートの調査やプロジェクトチームによる再確認を行った結果をもとに、部分改修を行った。

### ワークショップの実施ならびにワークシートの運用

夏期休暇期間のこどもワークショップ、企画展関連ワークショップ、秋の特別展関連ワークショップ、年末年始展示イベント関連ワークショップの実施と、ワークシートの運用等を実施した。ワークショップ回数は合計7回、総参加者数は110名であった。

### ボランティア活動支援

国立民族学博物館におけるボランティア活動者の受入要項に基づき、登録したボランティア団体であるMMP（みんぱくミュージアムパートナーズ）および地球おはなし村の活動支援を行った。

### 巡回展「マンダラ——チベット・ネパールの仏たち」（高知県立歴史民俗資料館）

事業メンバー 館内：南 真木人 館外：立川武蔵（国立民族学博物館名誉教授）

開催期間 2014年6月28日～7月31日

高知県立歴史民俗資料館にて高知県立歴史民俗資料館〈公益財団法人高知県文化財団〉・国立民族学博物館・一般財団法人千里文化財団主催の巡回展「マンダラ——チベット・ネパールの仏たち」を開催した。

### 巡回展（機構連携展示）東日本大震災復興特別企画「みんぱくおもちゃ博覧会（大阪府指定有形民俗文化財『時代玩具コレクション』）」

事業メンバー 館内：日高真吾（リーダー）、丸川雄三、吉田憲司

館外：小池純一（国立歴史民俗博物館）、青木 睦（国文学研究資料館）、小谷竜介（東北歴史博物館）

開催期間 2014年9月11日～10月5日（岩沼市民図書館）

2014年9月12日～9月21日（石巻市まんがる堂）

2014年9月12日～9月21日（石ノ森萬画館）

2014年9月13日～9月23日（気仙沼「海の市」）

2014年10月11日～11月30日（東北歴史博物館）

2012年度に大阪府より本館に移管された大阪府指定有形民俗文化財「時代玩具コレクション」について、こ

れまでの研究成果を反映し、その成果を宮城県において、巡回展示を行った。

### 3) その他

#### 年末年始展示イベント「ひつじ」

年末年始期において干支を題材にした展示ならびに関連催事を行い、来館者に季節感を伝えるとともに、世界各地の「ひつじ」と人びととの関わりを示し、本館の教職員を対象にした、展示目的・構成の設定から展示資料の選定、および展示に至る活動の研修を行った。

### 4. 情報管理施設のプロジェクト的な業務

「情報管理施設のプロジェクト的な業務」は、情報管理施設が実施する、文化資源に関する研究支援業務である。

#### みんなく映像民族誌の作成及び配付

本館製作のビデオテープ番組や研究用映像から10本を選び、みんなく映像民族誌第14集～第17集として4枚のDVDにまとめた。これを800セット分プレスし、591か所の図書館や研究機関等に配付した他、テーマに応じ、個別のDVDを学会等に配付した。

#### 標本資料の撮影等業務

標本資料を研究、展示、情報提供等に有効利用するために、5,068点の標本資料の撮影、計測、画像の利用及びそれらに付随する業務を行った。

#### ビデオテープの媒体変換

本館所蔵映像資料であるD3テープは、再生機器の老朽化により早急な媒体変換が必要となっている。本年度は、105本のD3テープをXDCAM(PD128:42枚、PD100:2枚、PD50:6枚)へ複製を行った。

#### フィルム等の酸性度調査とベース調査

本館が所有する映画フィルム:3,028本、16mmシネテープ:42本、オープンリールテープ:405本を対象に、A-Dストリップスを封入した後、一定の時間を置いて酸性度を調査した。また映画フィルム:3,028本についてベース調査を行った。その結果、特に劣化の進んでいる資料は無かった。また、映画フィルムのベース調査の結果、TACベース:2,990本、PETベース:38本であることを確認した。

#### 常設展示場新構築撤去資料の点検・クリーニング・再配架及びデータ整理作業

2013年度の新構築(中国地域の文化展示・朝鮮半島の文化展示・日本の文化展示)にともない撤去された1,062点の資料の状態のチェック(点検)、長期間展示されていた資料に関する情報のデータ作成および適切なクリーニングを行い、収蔵庫に再配架した。

#### 第3収蔵庫収蔵資料の配架見直し及び再配架作業

第3収蔵庫内の資料5,281点の配架見直しおよび再配架作業を行い、標本資料の収蔵状況を改善し、新たな配架空間を確保した。

#### 標本資料の補修・保存処理

展示場での資料点検、貸し出しなどの活用前後での資料点検の際に発見される資料の破損、汚損などの異常に対して、適切な処理を随時行った。新構築、あるいは特別展示に選定された資料、緊急に補修する必要がある資料などの補修を行い、資料を展示可能な状態にした。

#### みんなく運用・保守

157の学校や社会教育施設に、延べ231回の貸出を行った。また、貸出先での紛失や破損に伴う補修、老朽化した資料の交換等を行った。

